

年者までのすべての年齢層のための幅広い活動のプログラムを提供している。また近隣レクセナー（Neighborhood Recreation Center）は特定された成人と高齢者のためのプログラム（例えば心肺機能蘇生法）と青年のための活動に焦点づけられている。それにパートタイム・センター（Part-Time Center）は小学校年齢の子どもたちのために家に近く限定されたレクリエーションプログラムを用意している。前二者のセンターは年齢別、曜日・時間別等で各種のスポーツ活動の指導プログラムを提供している。

◇ 施設提供の中で注目してよいと思われるのは全市にわたり49カ所に100面を超えるテニスコートがあることである。或るものは砂場・ブランコなど乳幼児の遊び場と接続しており、若いカップルが子どもに遊びを保障しつつテニスを楽しむことが可能となっている。またこれらはすべてネットなどが完備し使用可能な状態におかれている。しかしこれらの施設はほとんど遊休化しており、市当局も各種のパンフレット或は市公報、専用テレビ情報局を通じて宣伝につとめている。ここに今日の合衆国における一つの問題と特徴をみる。

4. 在外研究計画（案）

早川 武彦

1. 研究テーマ：フランス左翼政権下における体育・スポーツ政策とスポーツ運動—人民戦線下の体育・スポーツ政策策定過程の分析—

2. 本研究テーマ設定理由：

①これまですすめてきた今日のフランス・体育・スポーツ政策・運動研究をさらに進める。②そのために、同じ左翼政権下における、体育・スポーツ政策形成過程を比較検討する。③そのことによって、わが国の体育・スポーツ政策策定能力形成にたいする運動課題を明らかにしていく。

1981年5月、フランスは、F・ミッテラン大統領の下に左翼連合政権を樹立した。前J・ディスタン政権の経済政策の破綻が招いたフランス国民

の選択の結果であった、といわれている。それにしても、この突然の政権交替は、左翼政権に対して、彼等の政策をねるにたる十分な時間的余裕を与えるものではなかった。とりわけ体育・スポーツ分野においては、国民スポーツの普及・拡大、学校における体育・スポーツの充実、競技力向上、指導者養成、スポーツマンの社会的承認などに関わる諸問題の解決および新たな発展を展望する政策・制度を準備する体制や基盤が用意されていなかった。唯一のてがかりは、1972年にフランス社会党とフランス共産党との間で合意されていた『共・社共同政府綱領』であった。そこには、国の体育・スポーツ政策の立案母体となるべき「全国体育・スポーツ高等評議会」の設置が謳われている。新政権下では特筆される政策であるとはいえ、1984年7月に制定を見た『新スポーツ法』（アビス法）は、「体育・スポーツ国民評議会」の設置を謳ったが、その権限は縮小され、画期的なものとはならなかった。ところが、1936年からの人民戦線政府は、わずか2年ほどでバカンス法、国民スポーツ認定証、高等体育師範学校および国立スポーツ研究所などの新設、学校体育（小学校）の導入など、当時であってはもちろんのこと、今日においてもなお政策課題と見なされるような、多くの革新的な政策を掲げ、その実現に努力したのである。

共に左翼政権でありながら、なぜこのように体育・スポーツ政策に違いが生ずるのか？歴史的・社会的状況の変化に対応して、体育・スポーツ政策も変化する。それ故単純に両者を比較することは出来ない。しかし、体育・スポーツ政策は、単にその歴史的・社会的状況によって規定されるだけでなく、体育・スポーツ分野の自己主張や運動によって、しかもその自己主張や運動が、歴史的・社会的状況の変化に一定の影響を与えるものであるかどうかによって、その内容や性格を異にする。そこで、両者の比較は、この歴史的・社会的状況の変化に対し、体育・スポーツ運動（研究活動も含めて）がどの様に関わったか、という点を中心にみていくことになろう。そしてまた、この比較・

分析をとおして、体育・スポーツ政策策定能力とは何か、体育・スポーツ運動の課題は何か、を明らかにし、今日のわが国の体育・スポーツ政策・運動研究をすすめていくうえでの方法・視点を提示してみたい。

3. 先行研究

本テーマに関する研究で比較的近いと思われる先行研究論文

①Françoise, HACHE「フランスの労働者スポーツ、二つの転換点：1936年と1981年」（上野卓郎訳）

「1936年」に関する先行研究

②Spivak, MARCEL "LA POLITIQUE SPORTIV DU FRONT POPULAIRE: ESSAI D'INTERPRETATION"（人民戦線のスポーツ政策—その歴史的解釈の一視点；1986年 ICOSH 報告）

③Réne, MOUSTARD "LE SPORT POPULAIRE" 1983. (『フランスのスポーツ運動』青木書店、1987)

④Réne, MOUSTARD "FSGT ET LA POLITIQUE DU FRONT POPULAIRE POUR L'EPS, LE SPORT ET LES LOISIRS DES TRAVAILLEURS" 『D.i.r.e.』 N°23, juin, 1987.

⑤Raoul, GATTENGNO "Il y a 49 ans.. 『S.P.A.』 12,1974.

⑥Pierre, MOUCHOT "En feuilletant l'histoire du sport travailliste" 『S.P.A.』 .., 7-8,1974.

⑦広田功「フランス人民戦線の〈文化革命〉の一側面—有給休暇と〈余暇の組織化〉」『希望と幻滅の軌跡—反ファシズム文化運動』1987 中央大学出版部

⑧伊藤高弘「『自由スポーツ』とA. ドローヌのこと」『スポーツのひろば』1987.10